

明治

空冷式二段

エアコンプレッサ

取扱説明書

形 式 G K E H - 2 2 E
G K E H - 3 7 A E
G K E H - 3 7 A Y E



当製品を安全に、また正しくお使いいただく
ために必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も必ず保存してください。

株式会社 明 治 機 械 製 作 所

压力换算表

kgf/cm ²	MPa
0.2	0.02
2	0.20
3	0.29
4	0.39
5	0.49
5.5	0.54
6	0.59
7	0.69
7.7	0.76
8	0.78
8.5	0.83
9	0.88
9.3	0.91
10	0.98
11	1.08
12	1.18
14	1.37
15	1.47
17	1.67
20	1.96
22	2.16
25	2.45
27.5	2.70
30	2.94
45	4.41
48	4.70
50	4.90

この度は、明治の空冷式二段エアコンプレッサ
をお買い上げいただきありがとうございます。

はじめに

- この取扱説明書は、空冷式二段エアコンプレッサの取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。
ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ正しくお取扱いただき、最良の状態でご使用ください。
- お読みになった後も、必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与又は譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡ししてください。
- この取扱説明書を紛失又は損傷された場合、また警告ラベルが破損・剝離・退色して見えにくくなったら速やかに当社又は当社の指定サービス店・特約店・販売店にご注文ください。
- 尚、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。
その際には、本書の内容及び写真・イラストなどの一部が本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買上げまたお近くの指定サービス店・特約店・販売店にお問合せください。

-  印付きの下記マークは、安全上特に重要な項目ですので、必ずお守りください。



危険

適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な傷害が生じる危険性が極めて大きいことを示します。



警告

適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な傷害が生じる危険が存在することを示します。



注意

安全な取扱に対する助言、あるいは適切な事前注意を払わなかった場合に、傷害または製品の重大な破損に至る可能性があることを示します。

目 次

安全に使用していただくために必ず守っていただきたいこと	2
設置にあたっての注意事項	4
各部の名称とその働き	5
お 使 い に な る 前 に	7
運 転 の し か た	9
1. 始動……………9 2. 停止……………10	
3. 空気タンク内に圧力がある時の始動のしかた……………11	
定期の点検・調整について	12
1. 吸込ろ過器……………12 2. Vベルト……………12	
3. アンローダパイロット弁……………13	
4. 安全弁……………14 5. 圧力逃し弁……………15	
定 期 点 検 基 準 表	16
不 調 診 断	17
仕 様	19
サービスと保証について	20

安全に使用していただくために必ず守っていただきたいこと



警告

- 屋外など、第三者（子供・一般の人々）が立ちいる場所で使用する時、監督者が注意を払えない場合には、代行者を置くか、防護柵を設けるか安全上必要な処置を行ってください。
- 本機で圧縮した圧縮空気は、人の呼吸用や人体には使用できません。
呼吸用・人体に使用すると呼吸困難・呼吸障害をおこし、死亡の原因となります。
- エンジンの排気ガスは、非常に有毒です。換気されていない場所では運転しないでください。
換気の悪い場所では、一酸化炭素がたまってガス中毒又は、死亡の原因となります。ご使用になる方はもちろんまわりの人や家畜などにも十分注意してください。
- ガソリン・ディーゼル軽油は燃え易い燃料です。特にガソリンは非常に燃え易く引火し易いものですので、下記のことを注意して取扱ってください。
取扱いをまちがえるとヤケド・ヤケドによる死亡、家屋の火事の原因となります。
 - 1) ガソリン・ディーゼル軽油の保管は保管用の容器で行ってください。
 - 2) ガソリン・ディーゼル軽油を扱っている間は、タバコ等の火気を扱わないでください。
 - 3) 清潔で整理整頓された場所で火気のない所で扱ってください。
 - 4) エンジンがまだ暖かい時やエンジンが回っている時は、燃料タンクの蓋を外さないでください。
 - 5) ガソリン・ディーゼル軽油補給はエンジンを止めてから行ってください。
 - 6) エンジンが熱い時にはガソリン・ディーゼル軽油を補給しないでエンジンが冷えるまで待ってください。
 - 7) ガソリン・ディーゼル軽油補給後は、燃料タンクの蓋を確実にしめて運転中・移動中にこぼれないようにしてください。
 - 8) エンジンの始動前に、燃料を補充した時点から最低3メートル離れて使用してください。
 - 9) ガソリン・ディーゼル軽油・オイルをこぼさないでください。こぼれたらふきとり完全に乾かしてください。

- 引火性のあるガス・爆発性の可燃物（アセチレン・プロパン・シンナー・ガソリン・塗料等）のない場所で使用してください。

もし使用して事故が発生すると、人身・建造物に重大な損害を与えます。

- 運転中・運転直後は、エンジンの排気マフラー・コンプレッサのシリンダカバーは高温になっていますので手を触れないでください。

ヤケドの原因となります。

- 移動・点検時には、空気タンクの圧力をゼロにするため空気弁又は、ドレン弁を開けてください。

圧力があるにもかかわらず圧力計などの加圧部を交換しようとする、その部品が飛びケガ・建造物の破損の原因になります。

- ベルトガードを外して運転しないでください。

回転部に手や衣服が巻き込まれて非常に危険です。

- 運転中はプーリ・Vベルトに手、指を近づけないでください。

回転部に巻き込まれると重大な事故をおこす危険性があります。



- 作業前・作業後に必ず点検を！

本機を使用する前に必ず始業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックして下さい。

- 設置場所は、清潔で室内温度が0～40℃の範囲でご使用ください。

1. 鉄粉・粉じん・木くず・砂じんなどのない清潔な空気が、吸入でき、十分に圧縮機が冷却できるよう壁より30cm以上離し、風通しの良い場所に設置してください。

室温は、運転中に40℃を超えないよう、換気扇などを設け、40℃以下になるようにしてください。

2. 充分強度のある水平な床に設置してください。

3. 輸送時の台木は外して運転してください。本機の損傷の原因となります。

- 湿気が少なく、雨などの水滴のかからない場所で運転して下さい。

錆の発生は勿論、潤滑油の劣化・モータのショート・感電の恐れがあります。

- 機械を輸送・点検・調節するときは、エンジンが止まっていることを確認してください。

- エンジンの取扱については、エンジンの取扱説明書を熟知するまでお読みください。

設置にあたっての注意事項

設置報告の届け出について

■平成2年9月13日の官報で労働安全衛生法のボイラ及び圧力容器安全規則の一部が改正され、所轄労働基準監督署長への第二種圧力容器設置届け出の義務はなくなりました。

ただし、圧力容器の取り扱い及び圧力容器明細書の保管などについては、従来通りですので、大切に保管する必要があります。

■第二種圧力容器の定期自主検査について

圧力容器明細書（0.2MPa以上で内容積40L以上の容器）が添付されている製品の空気タンクは第二種圧力容器に該当しますので必ず次のことを守ってください。

1. 安全弁は、最高使用圧力以下で作動するように調整しておくこと。
2. 圧力計の目盛は、最高使用圧力を示す部位に見やすいように赤で表示しておくこと。
3. 毎年1回以上、次の事項について定期自主点検を行ってその結果を記録し、3年間保存しておくこと。
 - 1) 本体の損傷の有無
 - 2) ふたの締め付けボルトの摩耗の有無
 - 3) 管及び弁の損傷の有無

第二種圧力容器自主検査点検記録

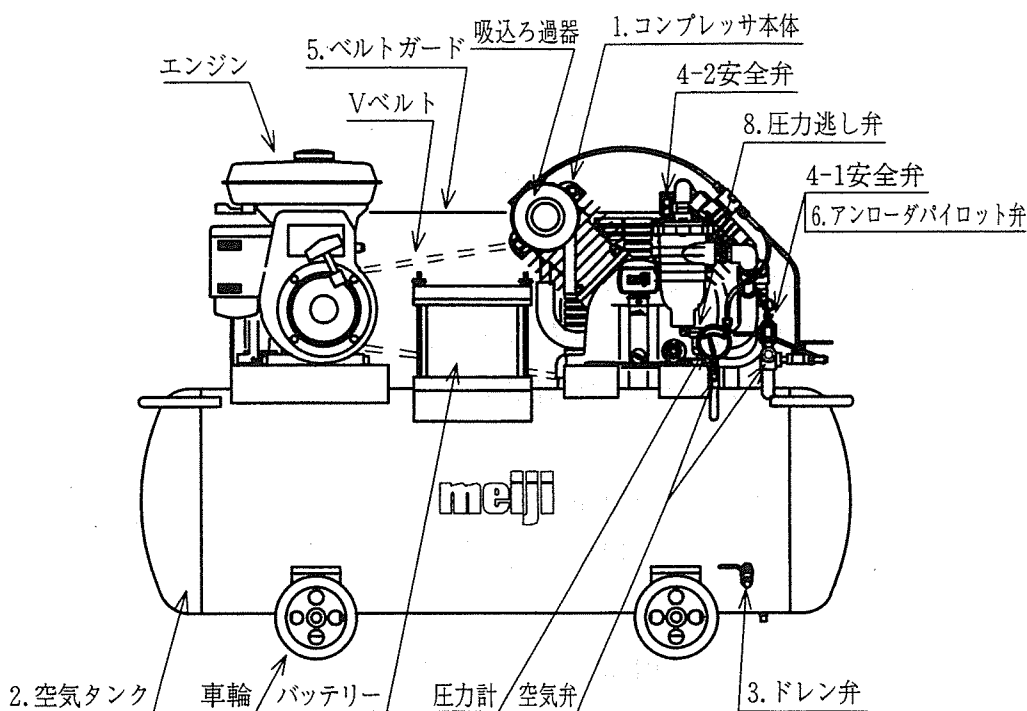
書式例

検査年月日 年 月 日		検査者氏名		事業者印
検査項目及び点検事項		異常		状態と措置
		有	無	
本体の損傷	1. 胴・鏡板			
	2. 安全弁			
	3. 圧力計			
ふたの締め付けボルトの摩耗				
管及び弁の損傷				

前記の各項は「労働安全衛生法」に定められており、違反のないよう十分ご注意下さるようお願い致します。

各部の名称とその働き

【 GKEH - 37E ・ GKEH - 37AE ・ GKEH - 37AYE 】



1. B T形 コンプレッサ本体

圧縮空気を製造する本体です。

2. 空気タンク

コンプレッサ本体で製造された圧縮空気を貯蔵する容器です。

3. ドレン弁

空気タンク内に溜まった水・油・錆等を排出させる弁です。

4. 安全弁

4-1空気タンクの圧力が規定圧力1.47MPaになると作動してモータの損傷、空気タンクの破裂を防止する安全装置です。

4-2中間段は規定圧力 0.54 ± 0.05 MPaになると作動します。

5. ベルトガード

プーリやVベルト等の回転部を保護し衣服の巻き込みによるけがを防ぎます。

6. GUP-14 アンロードパイロット弁

空気タンク圧力が1.37MPaまで上昇すると自動的に無圧縮運転にさせ、1.18MPaまで圧力が下がると自動的に圧縮運転に切り替える装置です。

7. ドレン分離器

一段側で圧縮された空気中に含まれた水分を除去します。

(GKEH-22E)

8. 圧力逃し弁

アンロード時、中間段の圧縮空気を逃す弁です。

又、中間段の圧力を0にすると共にドレンを排出し、負荷軽減も兼ねております。

お使いになる前に

- GKEH-22E・GKEH-37AE 使用する燃料は無鉛ガソリンで運転されます。

- GKEH-37AYE に使用する燃料はディーゼル軽油で運転されます。



警告

ガソリン・ディーゼル軽油は、燃え易い燃料です。特にガソリンは、非常に可燃性の高い燃料です。

燃料はこぼさないように補給し、もしこぼれたら十分ふきとってください。

火災によるケガを避けるため、ガソリン・ディーゼル軽油を扱うときは、タバコを吸わず炎・火花を近づけないでください。



注意

ガソリン・ディーゼル軽油は常に新しいものをお使いください。

一度購入したディーゼル軽油は、30日以内に使うてください。

古いガソリンは、キャブレタ内部にガム付着や漏れの原因となります。

- バッテリーの取扱いについては、バッテリーの取扱説明書を熟知するまでお読みください。

充電・放電を繰り返しますと、バッテリー液は減少します。

始動前に液量の点検を行い、少なければ市販の蒸留水を上限レベルまで補給してください。

バッテリー液が少なくなると、充電できなくなり、セルモータによる始動ができなくなります。



警告

バッテリーは取扱を誤ると重大なケガ・死亡の原因となります。

○火気厳禁

○充電する時は、バッテリーのキャップを開け換気の良い場所で行ってください。

○バッテリー液には十分注意してください。

○+・-の極を正しく接続してください。

- コンプレッサは必ず屋外で使用してください。



警告

室内やトンネル内のような換気の悪い場所で使用すると、排気ガスにより中毒をおこすことがあります。

- 車輪にガタがあると異常振動の原因になります。

異常振動により、コンプレッサ・エンジンの損傷の原因となります。

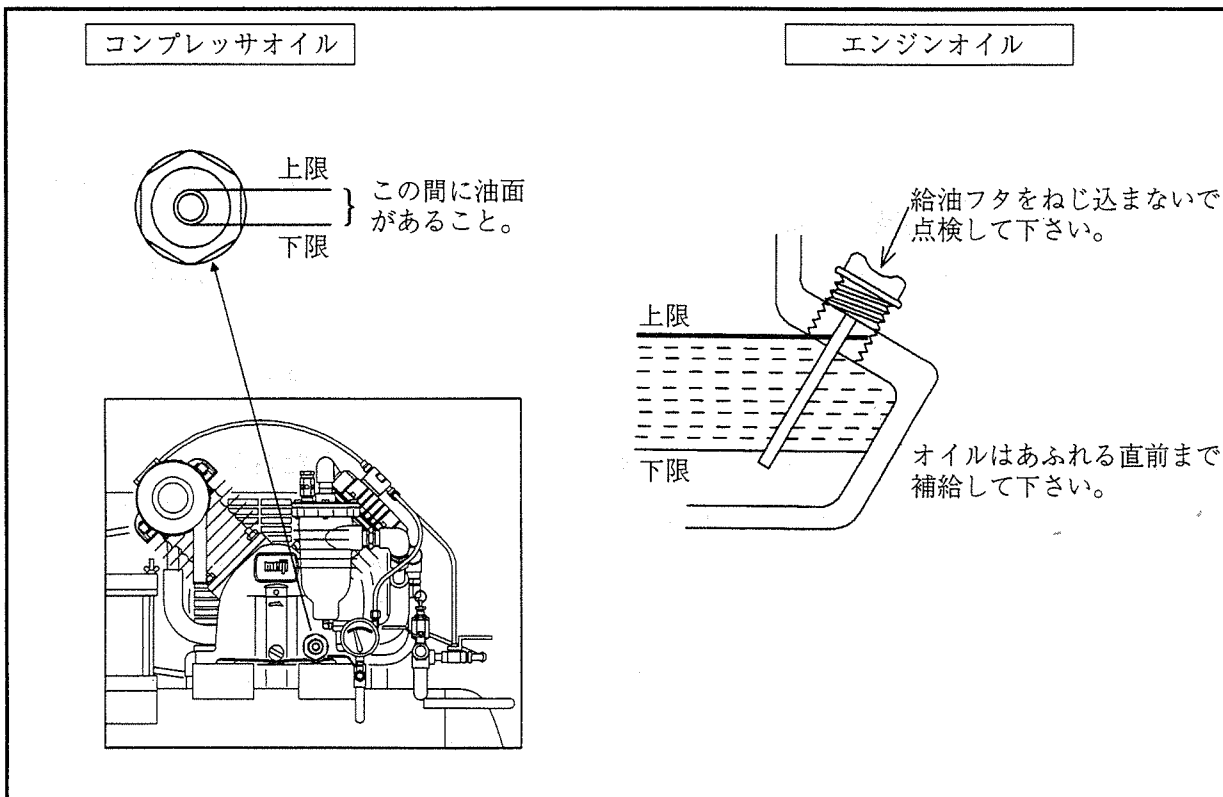
- 傾斜のない平坦な場所を選んで運転してください。

5°以上傾けて長時間運転するとコンプレッサ、エンジンの損傷の原因となります。

- 車上で使用する場合は、ロープ等でしっかり固定してください。
荷台から落ちるとコンプレッサの損傷になります。
- 直射日光はできるだけ避け、日影に置いてください。
- 作業前・作業後には必ずコンプレッサ、エンジン共にオイル量を点検してください。

オイル量は多くても少なくても故障の原因となりますので、ゲージを見て適量にしてください。

点検はコンプレッサを水平にして行ってください。



- コンプレッサオイルとエンジンオイルとは違いますのでそれぞれ指定の純正オイルを使用してください。

*コンプレッサ 純正コンプレッサオイル C O 68

*エンジン エンジンオイル S A E 10W-30

(詳細は、エンジンの取扱説明書を参照してください。)



指定以外の潤滑油を使用しますと、バルブ・シリンダ・シリンダカバー・ピストン等に炭化物が付着し性能を低下させるばかりでなく、炭化物の発火や軸受部の焼付事故等、コンプレッサ・エンジンの損傷の原因となります。

- 燃料の給油は、燃料タンクのゲージを見て給油してください。
使用途中で燃料切れになると、エンジンの回転が下がり異常振動の原因になります。

運転のしかた

1. 始動

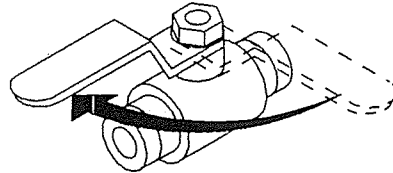
- (1) 空気タンクの圧力をゼロにするため空気弁又はドレン弁を開けてください。

(タンクに圧力があるとエンジンの始動が困難になります。)

- (2) 始動する前に、燃料の量が十分なことを確認してください。

燃料補給後は、燃料タンクの蓋を確実にしめてください。

1. 空気弁、ドレン弁を開いてください。



注意

燃料は、水分やゴミなどの異物が混入していない物を使用してください。

混入している物を使用しますとエンジンの損傷の原因となります。

- (3) 三方コックをアンロード (UN) へ切り換えてください。

- (4) エンジンを始動させてください。

★始動方法は、エンジンの取扱説明書を参照してください。

エンジンの燃料コックを開き、スピードコントロールレバーを低速 (L) から高速 (H) の方向に約1/3開いた位置にします。次に、チョークレバーを閉じます。

チョークの開度は

◇寒い時やエンジンが冷えている時は全閉にします。

◇暖かい時や運転停止直後再始動する場合は全開もしくは半開にしてください。

- (5) キーをキースイッチに差し込み運転の位置にします。更に右へ廻す (始動位置) とエンジンが始動します。



注意

始動しない場合、5秒以上連続してセルモータを廻さないでください。

キーを運転位置に戻し、10秒位休んでから再始動するようにしてください。

又、エンジン運転中は、キースイッチを始動位置に絶対に廻さないでください。セルモータの損傷の原因になります。

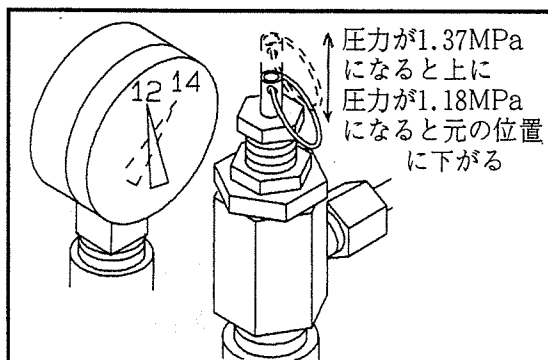
エンジンが始動したらチョークレバーを開きます。

- (6) エンジン・空気圧縮機の暖気運転を十分行った後エンジンのスピードコントロールレバーを徐々に高速 (H) 側に操作し、所要回転数にセットします。空気弁又はドレン弁を閉じて空気タンクの圧力をあげて下さい。

(7) 圧力が徐々に上がり

圧力が1.37MPaになると、アンローダパイロット弁が自動的に作動し圧縮運転をやめます。

それでもモータは依然として回転しています。圧力が1.18MPaまで下がると自動的に圧縮運転に切り替わります。



★正常に作動することを確認した後作業を始めて下さい。

危険

排気ガスには、有害な成分が含まれています。

排気の悪い場所では有害な一酸化炭素が溜まってガス中毒又は、死亡の原因となります。

ご使用になる方はもちろん、まわりの人や家畜などにも十分注意してください。

危険

安全弁は必ず規定圧力内で吹き出すよう定期点検を怠らないでください。

【中間冷却器 0.54±0.05MPa空気タンク1.47MPa】
モータの損傷だけでなく、空気タンクの破裂につながり重大なケガ・死亡の原因となります。

(調整方法はP14を参照してください。)

注意

アンローダパイロット弁が1.37MPaになっても作動しない、それ以上に圧力が上昇する。このような場合は、1.37MPa以下で作動するように調整してください。モータの損傷の原因となります。

(調整方法はP13を参照してください。)

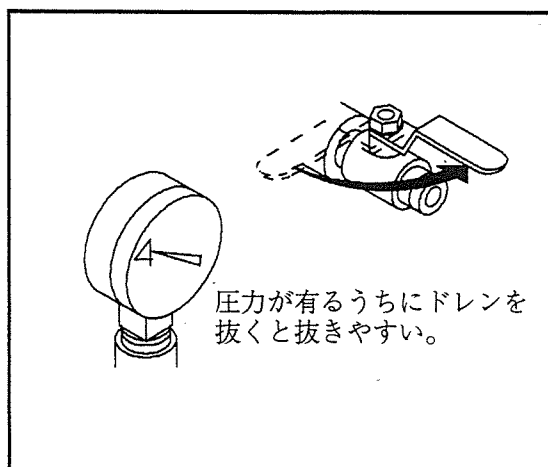
2. 停止

(1) エンジンを停止してください。

★停止方法は、エンジンの取扱説明書を参照してください。

GKEH-22E・GKEH-37AEは、キースwitchのキーを停止の位置にします。GKEH-37AYEはレギュレーターハンドルをSTOPの位置に戻してください。

(2) 空気タンクの圧力がゼロにならないうちに、ドレン弁を開放してドレンと圧縮空気を排出して下さい。





警告

ドレン弁を開ける時は、まわりに人がいない事を確認し、徐々に開けて下さい。

急に開けるとドレンがいきに出て危険です。

ドレン弁を開けてドレンを排出中はドレン弁の前に手を出さないでください。

異物（錆び等）が飛び出しけがをすることがあります。



注意

タンク内に圧縮空気を残したままにしておきますと、コンプレッサ内にドレンが発生しオイルが乳化しコンプレッサの焼付事故の原因になります。

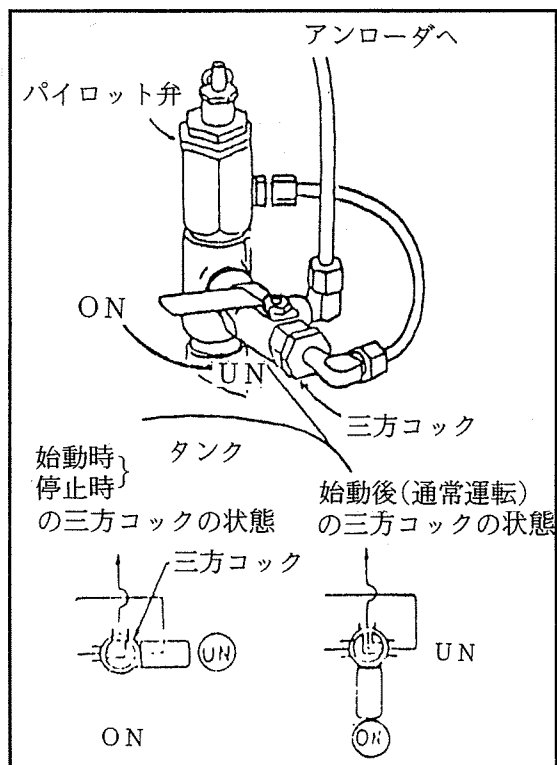


注意

燃料コックを“出”のままにしてトラック等で移動した場合、燃料がオーバーフローする事があり、その場合始動出来なくなります。

3. 空気タンク内に圧力がある時の始動のしかた

- (1) 始動時には三方コックをアンロード（UN）へ切り換え、コンプレッサを始動する。
- (2) 始動したら（ON）に切り換える。
- (3) 停止時には（UN）に切り換えて、コンプレッサを停止させその後（ON）に戻す。
- (4) 再度始動させる時は（1）の状態にして再始動する。

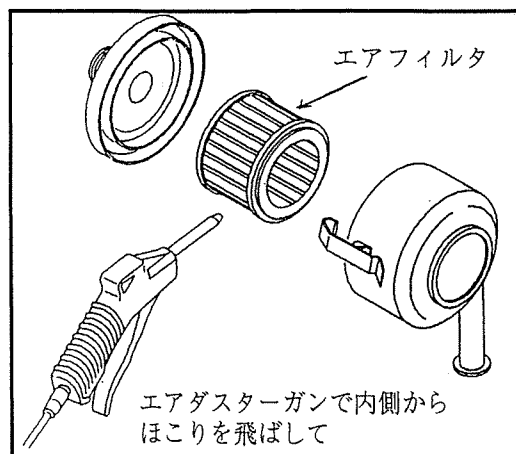


定期の点検・調整について

1. 吸込ろ過器

吸込ろ過器は、一定の空気量を吐き出させるために、エアフィルタを常に清潔な状態に保ってください。

軽くたたく又は、圧縮空気ではこりを飛ばして、エアフィルタを清潔にしてください。きれいにならないときは交換してください。



警告

エアダスターガンを使用して清掃する時は、保護眼鏡を使用してください。

使用しないと目にゴミなどが入る事があります。

エアダスターガンは人に向けないでください。怪我をする事があります。

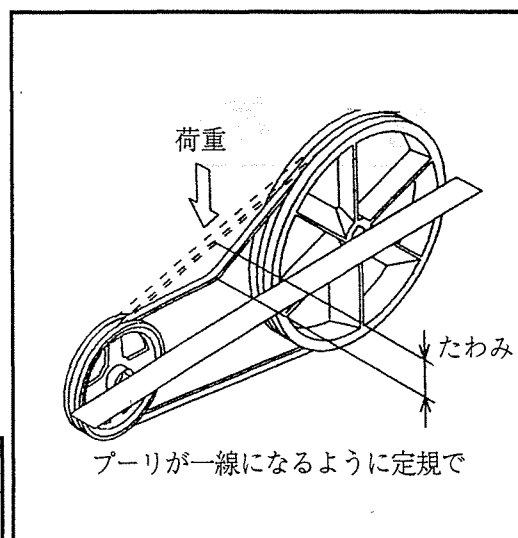


注意

エアフィルタを清掃しないで運転を続けていると、オイルアップが激しくなり、コンプレッサの損傷の原因となります。

2. Vベルト

Vベルトの張りがゆるいと、Vベルトがスリップしてコンプレッサの性能が十分に発揮させることができません。また、Vベルトの寿命も短くなり振動の原因になります。あまり強く張りすぎないようにVベルトを張ってください。



A ベル ト	適 用 機 種	たわみ荷重 (N)		たわみ量 (mm)
		新品ベルト	張り直し	
	GKEH-22E・ GKEH-37AE・GKEH-37AYE	25.0～30.0	25.0	10

3. アンローダパイロット弁

圧力を一定の範囲で保つ弁です。

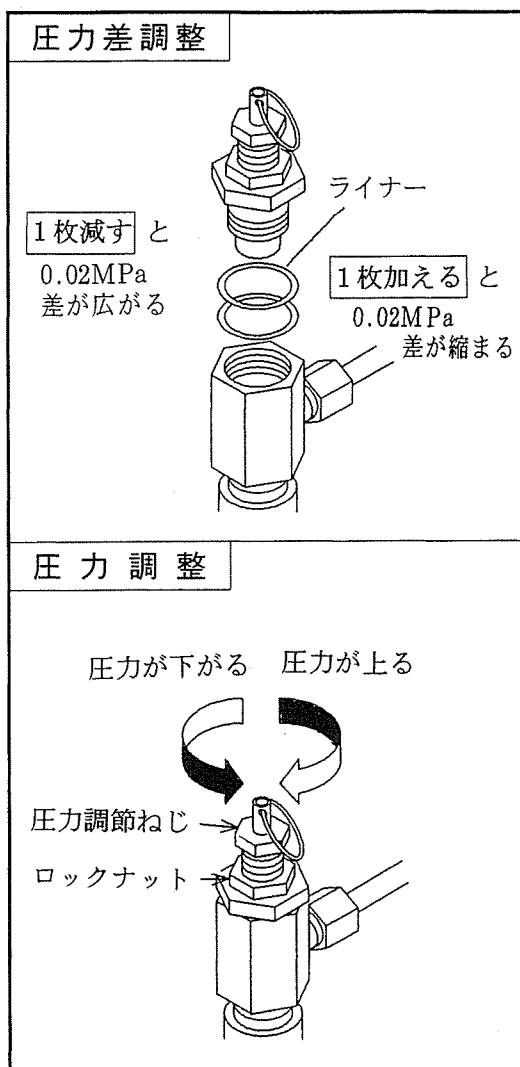
1.37MPaで圧力上昇が停止し、1.18MPaに下がると圧力上昇を始める。

この繰り返し運転ができず0.2MPaの圧力差がないときは、ライナーを抜いてください。

逆に0.2MPa以上圧力差があるときはライナーを加えてください。

1.37MPaになっても圧力上昇が停止しないときは、ロックナットを緩めて圧力調節ねじを左に回して圧力を下げてください。

1.37MPa以下で圧力上昇が停止するときは、右に回して圧力を上げて下さい。



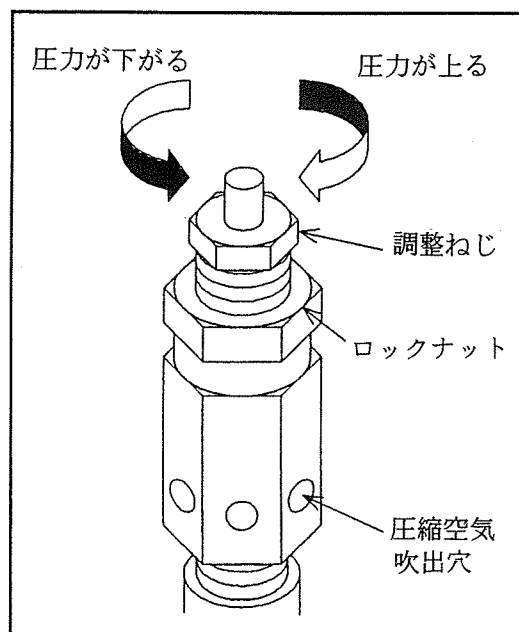
1.37MPa以上で運転しないでください。

コンプレッサ・エンジンの損傷の原因となります。

4. 安全弁

安全弁はコンプレッサ・エンジンの損傷、空気タンクの破裂から守る大切な安全装置です。

1.47MPa以上にならないと吹き出さないときは、ロックナットを緩めて調整ねじで圧力を下げてください。それでも調整できないときは、圧力をゼロにして分解掃除又は、交換してください。

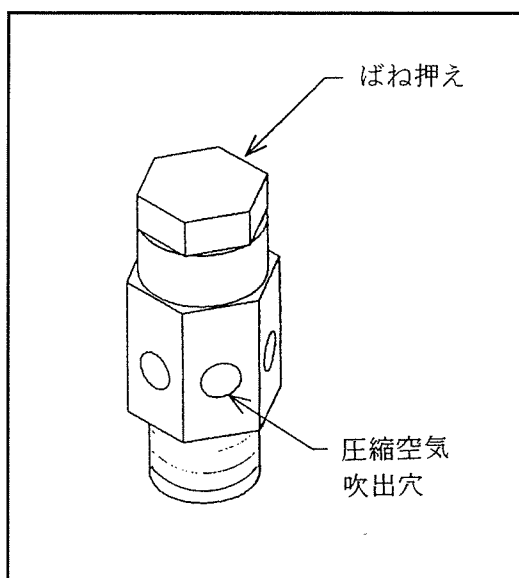


危険

安全弁は必ず、規定圧力内で吹き出すように調整してください。

コンプレッサ・エンジンの損傷だけでなく、空気タンクの破裂につながり、重大なケガ・死亡の原因につながります。

中間圧力用の安全弁は圧力調整ができません。安全弁から圧縮空気が吹出した場合は、弁プレート又はガスケットの異常が考えられますので、直ちに運転を止め、指定サービス店・特約店・販売店又は当社営業所にお問い合わせください。

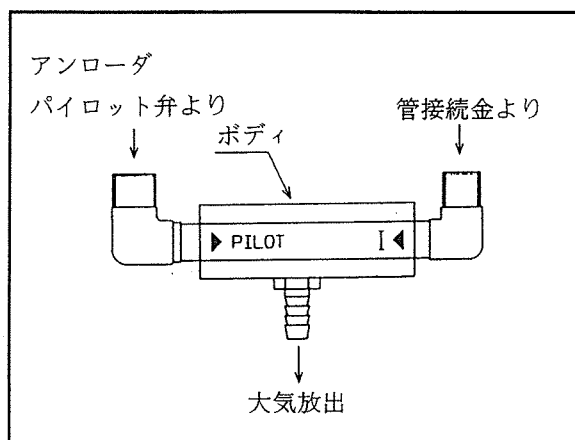


5. 圧力逃し弁

圧縮運転時、規定圧力（1.37MPa）に達すると、アンローダパイロット弁の圧縮空気信号によりバルブを開き、管接続金内の中間段の圧縮空気を大気に放出します。

この時、圧縮空気と共に中間段で発生したドレンも同時に外部へ放出する働きをします。

復帰圧力（1.18MPa）になりますと、圧縮空気信号が解除されバルブが閉じ、圧縮運転状態となります。



圧縮運転中又は、圧縮機が停止中に圧力逃し弁より空気漏れが続く場合は、圧縮機の故障が考えられますので、指定サービス店・特約店・販売店又は当社営業所にお問い合わせください。

定期点検基準表

1. コンプレッサの性能・寿命を維持し、長時間良好な状態で運転するには保守点検を充分に行うことが必要です。
2. 点検時期はコンプレッサの使用状況、取扱い方法などにより異なり、一概には決めることができませんが、一応の目安として下表に示します。
使用時間、運転時間のいずれか一方を点検時期の計算値として御考慮ください。
3. 空気タンクが第二種圧力容器に該当するコンプレッサを使用される方は、1年以内ごと1回、自主検査を行いその記録を3年間保存してください。

●コンプレッサ

点 検 個 所		点検事項	使用期間 運転時間			毎 日	半月ごと	1ヵ月ごと	2ヵ月ごと	3ヵ月ごと	6ヵ月ごと	1年ごと	2年ごと	備 考
			使用前	使用中	使用后	100時間 ごと	200時間 ごと	400時間 ごと	600時間 ごと	1200時間 ごと	2400時間 ごと	4800時間 ごと		
油 面 計		油量点検・補給	○											中性洗剤で洗って下さい。
異常音・異常振動		点 検		○										
空 気 タ ン ク		ド レ ン 抜 き			○									
空 気 タ ン ク		清 掃										○		
吸 込 ろ 過 器		清 掃					○							
V ベ ル ト		張力点検・張り調整				(第1回目) ●				(第2回目) ○		▲		
潤 滑 油		全 量 交 換				○								
ボルト・ナット		ゆるみ点検・増締め					(第1回目) ●					(第2回目以降) ○		
吸込弁・吐出し弁		清掃・カーボン除去							○			▲		
アンロードパイロット弁		作 動 確 認		○										
		分 解 ・ 清 掃								○				
安 全 弁		作 動 確 認									○			
空 気 洩 れ		点 検		○										
ベ ル ト 車		ゆるみ点検						○						
モ ー タ プ ー リ		ゆるみ点検						○						
圧 力 計		点 検 ・ 矯 正										○		
空気圧縮機全体		分解・清掃・整備										○		
シリンダ内径		摩 耗 量 点 検											○	
ピ ス ト ン	外 径	摩 耗 量 点 検											○	
	圧力リング	摩 耗 量 点 検											○	
	オイルリング	摩 耗 量 点 検											○	
	ピン 外 径	摩 耗 量 点 検											○	
クランク軸ピン外径		摩 耗 量 点 検											○	

表中 ●印は、初めて運転する場合に限ります。

▲印は、部品の交換時期です。

●エンジン

エンジンの点検は、エンジンの取扱説明書をご覧ください。

不 調 診 断

(1) 圧 縮 機

状 況	原 因	処 置
異常音・異常振動	弁プレート取付ねじのゆるみでプレートが躍る	ねじを締付ける
	クランクピン軸受摩耗	交換する
	ベルト車締付ボルトのゆるみ	ボルトを締付ける
	ベルトの芯がでていない	ベルトを平行に張りなおす
	各締付部ボルト・ナットのゆるみ	各部点検し締付ける
	玉軸受に異物混入または摩耗	分解洗浄または交換
吐出し空気の過熱	吐出し弁プレートの損傷	交換する
	吐出し弁プレートにカーボン付着	分解・掃除
	ベルト車逆転	配線手直し、正転とする
圧力が上らない 圧力上昇が遅い	吸込・吐出し弁プレートの漏えい又は損傷	交換する
	締付部からの漏えい	締付ける
	圧力計の故障	圧力計交換
	アンロード、圧カスイッチの操作・調整不良	分解掃除、調整、交換
	Vベルトのゆるみ	規定の張りに直す
潤滑油がなくなる	ピストンおよびシリンダ摩耗	ピストンおよびシリンダ交換またはオーバーホール
	圧カリング、オイルリングの摩耗	交換する
	ピストンリングを上下逆に組込む	刻印を上にして組み、合い口を同方向としない
運転中の急停止	摺動部の焼付き	焼付部品の交換
	電圧降下	電源の点検
	圧力の異常上昇による過負荷	アンロード、圧カスイッチを調整
	ヒューズ切れ	取替え
	部品の破損	破損部品の交換

(2) アンローダパイロット弁

状 況 原 因 処 置

ピーと音を発し、完全にアンロードしない	吐出し弁プレート不良による逆流	交換する
	アンローダピストンキャップよりの空気漏れ	アンローダピストンキャップ取付ボルトを締付ける
	銅管袋ナットゆるみによる空気漏れ	銅管袋ナットを締付ける
	アンローダピストンの当り面にゴミかみ込み	分解・掃除 傷があれば交換

完全にアンロードしない	プレート押え摩耗	アンローダアッセンブリ交換
-------------	----------	---------------

規定圧力で作動しない	調整ねじのゆるみ	圧力調整ねじを調整する
		差圧調整ねじを調整する

仕 様

コンプレッサ本体仕様

形 式	出 力	シリンダ径×行程×シリンダ数	クランク室内 の上限油量	作動圧力	質 量
	kW	mm×mm×個	L	MPa	kg
BTH-22E	2.2	90/65×56×1/1	0.55	1.18～1.37	42
B T -37	3.7	90/48×90×1/1	1.36		50

GKEH-37AYE

コンプレッサ仕様

形 式	エンジン種別		本体形式	作動圧力	吐出し 空気量	回転 速度	タンク 容 積	空気 取出口	全幅×奥行×高さ	質量
	燃料方式	定格出力 kW								
GKEH-22E	ガソリン	2.9	BTH-22E	1.18～1.37	215	790	150	1/4B×1	1310×520×929	187
GKEH-37AE		5.1	B T -37		375	850	213	1/2B×1	1380×610×1085	244
GKEH-37AYE	ディーゼル	4.1							1380×610×1080	294

※エンジンの仕様については、エンジンの取扱説明書を参照してください。
この仕様は予告なしに変更することがあります。

サービスと保証について

●保証について

コンプレッサの無償サービス期間は、本機を出荷した時点から12ヶ月又は500時間です。

ただし、期間中でも需要家側の取扱上の過失や、取扱説明書に記載してある過酷環境設置場所〈異常温度、粉じんが多い等〉で、使用された場合や、日常点検・定期点検・整備を怠った場合、本機を無断で改造された場合、故意に起こした事故、故障については保証いたしません。

また、消耗品や交換の必要な部品は明治純正部品をお使いください。純正部品以外のものを使用して故障した場合、クレームの対象になりません。

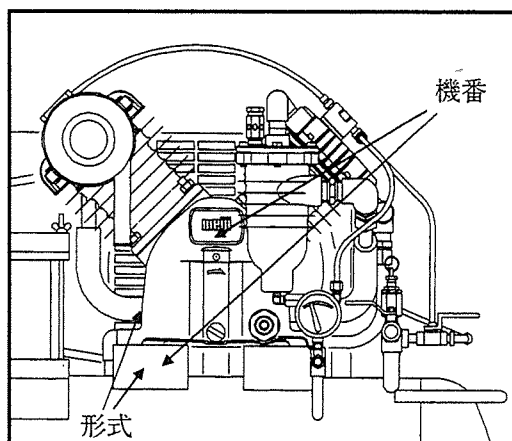
●本保証は日本国内で使用される場合に限り適用されます。

●アフターサービスについて

機械の調子の悪いときに点検・処置しても、なお不具合があるとき・不審な点及びサービスに関しては、指定サービス店・特約店・販売店又は当社営業所にお問合わせください。

連絡していただきたい内容

- ・形式 ・製造番号
- ・故障内容（できるだけ詳しく）



明治コンプレッサ指定サービス店

(2005年09月現在)

地区	指定サービス店名	所在地	TEL	地区	指定サービス店名	所在地	TEL
北海道	(株)キョーワコーポレーション	札幌市東区	(011)741-0167	近畿	(株)小西エア・サービス	奈良県磯城郡	(07443)3-2338
	旭機器工業(株)	旭川市	(0166)61-4615		中嶋空圧(株)	京都市伏見区	(075)643-0545
	旭機器工業(株)	札幌市白石区	(011)811-8858		中嶋空圧(株)滋賀営業所	滋賀県草津市	(077)567-7997
	旭機器工業(株)	苫小牧市	(0144)55-0444		ゴクタ工業	和歌山県和歌山市	(0734)62-3036
	旭機器工業(株)	帯広市	(0155)34-6078		(有)ハナミ工業	大阪府松原市	(0723)34-7675
東北	(有)小山鉄工場	岩手県一関市	(0191)25-3530	山陽・山陰・中国	松本コンプレッサー	大阪府八尾市	(0729)94-8873
	(有)武石商会	宮城県仙台市宮城野区	(022)252-2237		(有)三和コンプレッサー工業所	大阪市淀川区	(06)6309-7341
	日機産業(株)	福島県いわき市	(0246)53-5777		(株)ヤマコン	大阪市西淀川区	(06)6473-9771
	富士メンテナンス工業(株)	山形県天童市	(0236)54-1520		(株)阪神工作所	大阪市福島区	(06)6451-4501
	郡山日機産業(株)	福島県郡山市	(0249)59-3741		宝塚コンプレッサー商会	兵庫県宝塚市	(0797)81-0092
関東	(有)穴山電機工業所	秋田県秋田市	(0188)45-1434	四国	福西機械	兵庫県神戸市灘区	(078)871-8541
	(有)栃木エアテックサービス	栃木県宇都宮市	(028)665-3531		(有)マキエアーサービス	京都府福知山市	(0773)33-2851
	(株)アズマ	群馬県前橋市	(027)251-5724		(株)明治コンプレッサー大阪販売所	大阪市北区	(06)6372-3041
	アライ産機サービス	群馬県群馬郡	(027)371-4787		(株)澤村エアーサービス	大阪府松原市	(0723)30-3261
	両毛空圧(株)	群馬県館林市	(0276)74-5190		姫路コンプレッサ	兵庫県姫路市	(0792)53-1725
甲信越	フルテック(株)	茨城県水戸市	(0292)44-3411	九州・沖縄	(株)フジカワキカイ	兵庫県姫路市	(0792)24-7593
	(有)明治産機	埼玉県草加市	(0489)22-2240		(株)日章屋	兵庫県姫路市	(0792)53-3158
	(株)天昌機電社	千葉県君津市	(0292)24-0132		(株)明 空	岡山県岡山市	(086)276-8787
	(株)天昌機電社 市原	千葉市原市	(0436)23-1088		橘高工業(株)	広島県福山市	(084)951-2828
	(株)明治京浜サービス	東京都墨田区	(03)5610-5931		重光機器サービス	鳥取県米子市	(0859)29-9935
東海	相模エアーサービス	神奈川県相模原市	(0427)47-0706		(有)広亜工業	広島県広島市西区	(082)238-0240
	(有)芝野電機	長野県岡谷市	(0266)22-2086		山陽空機サービス	広島県広島市西区	(082)238-6608
	(有)上田機工	長野県上田市	(0268)35-1149		(株)四国メイジエアシシステム	香川県高松市	(087)844-8123
	(有)エムワイエアー工機	長野県松本市	(0263)25-2179		(有)四国エアーサービス	香川県高松市	(087)886-3832
	(有)田中鉄工所	新潟県三条市	(0256)32-0473		東予エヤー(有)	愛媛県西条市	(0898)66-2489
北陸	(株)ABCエンジニアリングサービス	新潟県長岡市	(0258)36-0148		(有)細川電機商会	高知県高知市	(088)873-3910
	(株)工電社	新潟県西蒲原郡	(0256)63-9559		(有)四国空圧機工業	徳島県徳島市	(088)669-1929
	ニイガタメイジテクノ	新潟県新潟市	(025)284-9680		(有)ミタカ機工	福岡県大野城市	(092)571-1595
	東機工(有) サービス工場	静岡県浜松市	(053)411-3200		(有)マシンサービス	福岡県福岡市東区	(092)621-1510
	(株)モリサービス	静岡市駿河区	(054)258-3654		エアーワーク	福岡県久留米市	(0942)33-0163
中部	(株)モリサービス東営業所	静岡県沼津市	(055)927-3111		(有)原 電機	長崎県長崎市	(095)845-5027
	(有)北産機器サービス	石川県金沢市	(076)257-0331		松尾機工	佐賀県佐賀市	(0952)22-9157
	(有)中部圧縮機サービス	石川県金沢市	(076)268-3232		大分コンプレッサー(有)	大分県大分市	(0975)51-4470
	(有)トナミ空圧	富山県礪波市	(0763)32-4268		(有)カタヤマサービス	熊本県熊本市	(096)357-3845
	桃井工業所	富山県高岡市	(0766)31-2728		(有)コザモートル	沖縄県うるま市	(098)937-5284
	(有)中山商会	福井県鯖江市	(0778)51-1193		多貨邑鉄工所	熊本県山鹿市	(0968)46-3969
	(株)明治コンプレッサー城北サービス	名古屋市北区	(052)913-0009		大広電機	鹿児島県鹿児島市	(099)248-6911
	(有)ワケ機械	名古屋市中川区	(052)353-6565		宮崎整機	宮崎県宮崎市	(0985)52-3821
	(有)磯田機械サービス	愛知県豊橋市	(0532)41-0155				
	スミ電機工業(株)	愛知県西尾市	(0563)56-8020				
	(有)清水機械	岐阜県大垣市	(0584)91-7353				

お客様メモ

下記に御記入し、ご活用下さい。

形 式	
製 造 番 号	
耐 圧 番 号	
ご 購 入 年 月 日	年 月 日
ご使用開始年月日	年 月 日
ご 購 入 先	TEL

営業品目

- | | | |
|--------------|--------------------|-------------|
| ★小型往復空気圧縮機 | ★パッケージコンプレッサ | ★エンジンコンプレッサ |
| ★スクリュウコンプレッサ | ★オイルフリースクロールコンプレッサ | |
| ★スプレーガン | ★付属空気機器 | ★自動塗装装置 |
| ★塗装排気装置 | ★乾燥炉 | |

事業所一覧

- | | | |
|-------------|-----------|---|
| ・ 本 社 | 〒532-0027 | 大阪市淀川区田川2丁目3番14号
TEL.06 (6309) 1222 FAX.06 (6308) 7047 |
| ・ 大 阪 支 店 | 〒532-0027 | 大阪市淀川区田川2丁目3番14号
TEL.06 (6309) 8151 FAX.06 (6309) 8157 |
| ・ 東 京 支 店 | 〒135-0042 | 東京都江東区木場2丁目5番7号 KHビル内5階
TEL.03 (3642) 0701 FAX.03 (3642) 3200 |
| ・ 名 古 屋 支 店 | 〒468-0045 | 名古屋市天白区野並2丁目345番地
TEL.052 (896) 1921 FAX.052 (896) 6831 |
| ・ 岡 山 支 店 | 〒703-8214 | 岡山市鉄160番地
TEL.086 (279) 2853 FAX.086 (279) 6460 |
| ・ 福 岡 支 店 | 〒816-0921 | 福岡県大野城市仲畑2丁目6番44号
TEL.092 (587) 1247 FAX.092 (502) 6129 |
| ・ 北関東営業所 | 〒376-0013 | 群馬県桐生市広沢町2丁目3064番地の1
TEL.0277 (52) 3351 FAX.0277 (52) 7880 |
| ・ 静岡出張所 | 〒422-8034 | 静岡市駿河区高松1828-4
TEL.054 (236) 5688 FAX.054 (237) 6639 |
| ・ 金沢出張所 | 〒920-0062 | 金沢市割出町646 百山ビル内
TEL.076 (238) 6201 FAX.076 (238) 9662 |
| ・ 高松事務所 | 〒761-8083 | 高松市三名町656-2 宮脇書店 三名ビル201号
TEL.087 (815) 7820 FAX.087 (815) 7825 |
| ・ 広島事務所 | 〒731-0137 | 広島市安佐南区山本1-9-6 サンロード101号
TEL.082 (832) 2258 FAX.082 (832) 2289 |
| ・ 岡 山 工 場 | 〒703-8214 | 岡山市鉄160番地
TEL.086 (279) 1252 FAX.086 (278) 3798 |
| ホームページアドレス | | http://www.meijiair.co.jp/ |